

# 国語科学習指導案

期 日 平成26年6月5日(木) 公開授業 I  
学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
1年D組39名  
会 場 1D教室  
授業者 楠 美 富 栄

## 1 単元名・学習材名 わたしの LIBRARY

平成25年度附属中学校図書室蔵書数・貸出数  
『いわての中高生のためのおすすめ図書100選』  
図書館や出版会社から出版されているブックリスト  
インターネットや新聞・書籍等に掲載されている書評

## 2 単元について

### (1) 学習者観

岩手県教育委員会で実施している「子どもの読書状況調査」では、学年が上がるにつれて1カ月間における読書冊数は減少するものの、中学生の不読者数は減少傾向にあり、読書に親しむ子どもたちが増加するという望ましい状況が報告されている。実際に本校学習者への読書アンケートでも、不読者は少なく、読書に親しむ生徒が多数いることが分かった。しかし、その読書傾向を分析すると、文学作品に大きく偏るとともに、ライトノベルやマンガ・ゲームのノベライズといった深い思考を要せず気軽に楽しめる作品を選書している生徒が多く、本来読書が持っている効果を十分に発揮するための読書行為ができていない状況とは言い難い。故に、授業でも結末の分かりやすい単純な物語には興味を示すが、人生や生き方を考える上で示唆に富む文学作品や論理的思考を養う説明的文章に対して苦手意識を持つ生徒も少なくない。実際に、これまでの学習で取り組んだファンタジー物語「空中ブランコ乗りのキキ」では、そのファンタジー性に興味を示したものの、物語の底辺に流れる「価値ある人生」にまで考えを馳せる生徒は少なかった。また、説明的文章「水田のしくみを探る」でも、筆者の工夫された論理の構造や表現に注目しながら読むことを苦手とし、論理的文章を読み慣れていない傾向を示す生徒も多かった。当然「読むこと」のスキルは今後の授業で育成すべきものであるが、日常で展開される読書行為との往還的作用が、個々の「読むこと」のスキル向上につながり、また生涯学習の観点からも読書によって学びを広げる人間を育成すべきことが本学習者の指導に必要な事項であると感じる。しかし、読書は強制的に推進されるものではなく、個々の興味や意欲がなければ成立しないことを鑑み、学習者自身が読書生活を豊かしようとする主体性を意識した単元を計画する必要があると考える。

### (2) 学習材観

本時は、学習指導要領国語科第1学年の目標「(3) 目的や場面に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる」のために、「読むこと」の指導内容「(カ) 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。」に力を入れ、これまでの読書生活を振り返りながら、今後の読書生活を主体的に形成していく力の育成をねらっている。

本学習材『平成25年度附属中学校図書室蔵書数・貸出数』は、平成25年度1年間における貸出数の概要をまとめた資料である。およそ8,400冊の蔵書に対して年間を通じて1番の貸出数となっている図書が「9文学」である。続いて「7芸能」と続く。この2分類以外はすべて一桁台の貸出数である。更に、具体的に見てみると、「7芸能」では、「78スポーツ・体育」に関する図書が圧倒的に多く、部活動での技術向上を目指して図書が選ばれていることがわかる。また、「9文学」では「91日本文学」が多く借りられており、文学を中心に本校生徒が選書している傾向が見て取れる。蔵書数に関しても「91日本文学」が他分野よりも圧倒的に数が多いことから、上記のような傾向になるのは当然とも言えるが、日常的に行われる「読書の偏り」を如実に示す資料となっており、この資料を起点とすることで、学習者自身の傾向との相違点・共通点からこれまでの読書生活について自覚的に振り返るきっかけづくりに適した資料になると思われる。単元学習において要となるのは、主体的に学習課題を設定し、学習に臨もうとする意欲を

喚起することである。その意欲を喚起するための一つの資料として活用したい。

また、『いわての中高生のためのおすすめ図書 100 選』は、現役の中高生を含む関係者で構成された選書委員会が選書した中高生の豊かな本との出会いを応援するためのブックリストである。県内全ての中高生に配付されたものである。このリストは8つのテーマによって選書されたものであるが、掲載されている本がどのような意図をもって選書されたものであるのか、その意図を考えることによって、今後の選書するための方向性を考える良い学習材になると考えられる。また、ブックリストだけでは得られない情報を取得するために可能な限り、実際に100冊の図書を集めて学習者へ提示する。本単元での、「目的に応じて必要な情報を読み取る」力を育成することにもつながることが予想されると同時に、読書に対する興味や意欲への喚起につながると思われる。

各出版会社が発行しているブックリストは、選書テーマにもとづいて本を選択する際の資料となる。現在日本では書籍の新刊発行数は年間76,000冊を越える。過去に出版された書籍も含めて、膨大な数にのぼる書籍の中でも特に中学校図書館に導入を推薦するリストや中学生向けの推薦図書がまとめられたブックリストを使用することにより、望ましい選書に少しでも近づけたいという指導者側の意図に沿った、自分だけのブックリストを作成することが可能になると思われる。

更に、ブックリストだけでは得られない情報として、各種メディアに掲載されている書評を用いる。学習者は、本の帯やポップを参考にしたり、友人や家族などの紹介を頼りにしたりという本の見つけ方は経験しているが、書評を活用するという経験は少ない。新しい図書の見つけ方や探し方を体験させ、今後の読書生活に役立てたい。同時に、実際の書評を読むと、必ずしも「オススメ」という前向きな評価のみが書かれているわけではなく、同じ図書でありながら読者によっては賛否二分する評価を持つ図書も多く、様々な視点で読書が行われるということを体験的に学ぶことも可能になると思われる。

### (3) 「学びの自覚化」とのかかわり

国語科では研究主題を「学びを自覚しながら『自立した読者』として学び合う学習者の育成」としている。そこで、本単元では、これまでの読書生活をブックリストや資料を起点として振り返り、他者との交流を通して、今後の読書生活に自覚的に活用できる生徒の育成を目指すこととする。

読書は読み手の主体的な活動であるだけに、興味のおもむくままに読むことに陥りがちであり、自分自身の読書生活を自覚させない限り、放置したままではより質の高い読書活動のための力は育たない。故に、3年間を通じて系統的・計画的に指導する必要があるが、その読書指導では、読書の楽しみ方や読書技術の獲得などと同時に、選書力や、読後の本の整理の仕方など多岐にわたる。最終的には、学習者自身の読書生活を豊かにする方向に向けて計画される必要があるが、読書指導は従前の国語科の学習の中に十分には位置づけられてこなかった。その理由の一つとして、国語科における「読むこと」の指導が、「教科書」の中に閉じ込められがちであったことが挙げられる。そこで、改めて本来の「単元学習」の考えに立ち、読書指導を教科書以外の資料を用いて、広い視野で読書生活を構築していこうとする意欲やそのための能力の育成を図っていききたい。特に、1年生の読書の力として、中学校3年間の読書生活を豊かにするものとなる「選書力」を本単元では取り扱うこととする。読書の目的として、①「娯楽読書」②「情報読書」③「思索読書」の3点が挙げられるが、自分自身の読書生活を客観的に振り返らせる過程で、これまでの読書体験が①にのみに偏っていたことを自覚させることを出発点として、推薦図書を扱った資料や他者との交流等の様々な資料を用いることで、広い視野で選書の力を育みたいと考える。

## 3 単元の指導目標及び評価規準

### (1) 指導目標

- ① 課題に沿って本を選択させ、進んで紹介しようとする態度を育てる。

【国語への関心・意欲・態度】

- ② 選んだ本や文章に表れているものの見方や考え方について、共感したり疑問を持ったりして自分の考えを広げさせ、本を紹介させる。

【読むこと オ】

- ③ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付けさせ、目的に応じて必要な情報を読み取らせる。

【読むこと カ】

- ④ 文章を読んで意味のわからない語句を辞書で調べさせ、文脈上の意味を考えさせる。

【言語に関する知識・理解・技能】

(2) 評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ言語に関する知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に沿って本を選び、進んで紹介しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ本や文章に表れているものの見方や考え方について、共感したり疑問を持ったりして自分の考えを広げ、本を紹介している。</li> <li>・表題や目次などを参考にして課題に沿った本を選び、必要な情報を読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んで意味のわからない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。</li> </ul>

4 単元指導計画及び評価計画

次	時	学習目標	評価規準	評価方法
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校図書室の概要を知り、図書十進分類法について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書に興味を持ち、自分の読書生活について積極的に考えようとしている。【アー①】</li> <li>・表題や目次などを参考にして課題に沿った本を選び、必要な情報を読み取っている。【イー①】</li> </ul>	観察 記述の分析
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のねらいや進め方をつかみ、見通しをもつことができる。</li> <li>・「平成25年度附属中学校図書室蔵書数・貸出数」をもとに、自分の読書生活について振り返り、学習課題を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しをとらえ、積極的に学習に取り組もうとしている。【アー②】</li> <li>・資料の考察をもとに、これまでの自分の読書生活について振り返ることができる。【イー②】</li> <li>・資料を読んで意味のわからない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。【ウー①】</li> </ul>	観察 記述の分析
二	3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」の選書意図について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に沿って資料を読み、積極的に考えをまとめている。【アー③】</li> <li>・必要な情報を取捨選択しながら資料を読み、自分の考えを広げている。【イー③】</li> <li>・資料を読んで意味のわからない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。【ウー②】</li> </ul>	観察 記述の分析 発言の内容
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いわての中高生のためのおすすめ図書100選」の選書意図をもとに、中学校時代に読むべき本に関する考えを交流する。</li> <li>・「中学校時代に読んでおきたい図書10選」の選書基準を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会に積極的に臨み、自分の考えを深めたり、広げたりしている。【アー④】</li> <li>・必要な情報を取捨選択しながら資料を読んだり、他者の考えを聞いたりして、自分の考えを広げている。【イー④】</li> <li>・資料を読んで意味のわからない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。【ウー③】</li> </ul>	観察 記述の分析 発言の内容
三	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックカタログやブックリストをもとに、「中学校時代に読んでおきたい図書10選」を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に沿って本を選び、本の概要について進んで紹介しようとしている。【アー⑤】</li> <li>・表題や目次などを参考にして課題に沿った本を選び、必要な情報を読み取って、本を紹介している。【イー⑥】</li> </ul>	観察 記述の分析
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した「中学校時代に読んでおきたい図書10選」の交流会を行い、今後の読書生活について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んで意味のわからない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。【ウー④】</li> </ul>	観察 発言の様子 記述の分析

## 5 本時について

### (1) 主題

選書の力を身に付けさせ、読書生活を豊かにしようとする意欲を喚起すること

### (2) 指導目標

必要な情報を取捨選択させながら「いわての中高生におすすめ図書100選」を分析させる中で選書の力を身に付けさせると共に、中学校時代に読むべき本の傾向について考えさせ、読書生活を豊かにしようとする意欲を喚起する。

### (3) 評価規準

① 課題に沿って資料を読み、積極的に考えをまとめている。

【国語への関心・意欲・態度】

② 必要な情報を取捨選択しながら資料を読んだり、他者の考えを聞いたりして、自分の考えを広げている。 【読むこと オ】

③ 資料を読んで意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている

【言語に関する知識・理解・技能】

### (4) 指導の構想

前時の学習では、「娯楽読書」を目的とした「文学」一辺倒の偏りのある読書生活をこれまで送ってきたことを資料を用いて振り返っている。その際、文学作品だけを読むことが果たして悪いのか、文学作品以外に興味を惹く内容の図書が果たしてあるのかという疑問を生徒は抱いている。本時は、その問いに対する回答も含めて、次時において「中学校時代に読んでおきたい図書10選」を選書するための基準の参考にすべく、「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」（以下「いわ100」）を選書の手本として、その図書傾向を分析し、豊かな選書の在り方について考える時間である。併せて、本時では、未読図書から課題解決のための必要な情報を収集し、その情報を解釈・熟考するとともに、他者との交流を通じて考えを深めていくという「読む力」を育成していきたい。

展開冒頭では、分析の仕方の確認として100冊の本の中から『タマラセ』を取り上げる。分析のために必要とする情報を以下の通りとする。

#### 【分析のための情報】

①題名 ②著者 ③目次 ④挿絵・写真 ⑤表紙の内容紹介 ⑥奥付 ⑦数ページの飛ばし読み  
⑧ポップ（『いわ100』の冊子に掲載されている図書紹介文）

『タマラセ』は、表紙から推察できるように典型的な「ライトノベル」であり、これまで学習者が行ってきた「娯楽読書」のための選書の方向性との違いがなく、中学校時代に読むべき本として、何が魅力的なのかが伝わりづらい本である。しかし、本書の裏表紙を見ると、「岩手県出身」の作家であることが分かる。内容に関してはSF学園物語であるために好みの分かれるところではあるが、主人公が学習者と同年代であり、一関市をモデルとする架空の町が舞台となっており、学習者にとって身近な内容であるということも本書の魅力の一つであると思われる。以上2点を選書された理由として確認し、一見するとこれまでの自分の読書傾向との違いはなさそうに思えるが、中高生が好む「ライトノベル」というジャンルのみで選書されたのではないことに気付かせたい。

次に、『タマラセ』の分析を手本とし、残り99冊の図書について小グループ（4人編成）で分析作業を進めるが、「いわ100」掲載図書をグループに10冊ずつ配付して分析を行わせる。10冊に分ける際には、必ず以下の図書が含まれるように意図的に分ける。

- ①【文学】 普段の読書で学習者が好んで選択する図書
- ②【文学】 テーマが難解そうに思えるような普段の読書で学習者が選択しない図書
- ③ 社会的あるいは理科学的テーマが含まれる図書
- ④ 人としての「生き方」を考えさせる図書

「いわ100」の図書も、これまで学習者が体験してきた読書生活と同様に「文学作品」が多い。しか

し、その選書は幅広いテーマに及び、学習者の好きなジャンルから程遠い図書も見られる。そこで、①の図書の魅力は日常の読書生活から体験的に理解をしていると思われるので分析は行わず、同じ文学でありながら、普段の読書で学習者が選択しない②の図書にしばって、描かれている「主題・題材」(テーマ)が何であるのかを分析させる。この分析活動から「主題・題材」に注目した幅広い選書について学ばせたい。また、同様に③・④のテーマの図書も普段の読書生活では、学習者が選択しない図書であるため、その図書のもつ魅力について話し合わせ、文学以外の図書にも目を向けさせたい。

全体交流では、「いわ100」の図書の傾向として発見したことを、各グループに報告させる。その際、自分たちが請け負った10冊の中で、特におすすめの図書ではないかと思った本が何であったのかも、根拠を示して報告させる。

終結時の振り返りとして、「いわ100」選書の傾向と自分がこれまで行ってきた読書の傾向との比較を改めて行わせ、「娯楽読書」に加えて、「思索読書」「情報読書」を推進していくことが豊かな読書生活につながるということを確認し、次時以降の選書の基準の作成に向けて意欲化を図る。

(5) 本時の展開

段階	学習活動	○学習内容	時	学びの自覚化とのかかわり
導入	1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。		10分	
	<b>【学習課題】</b> 『いわての中高生のためのおすすめ図書100選』で推薦されている図書の魅力とは何だろうか。			
		○必要な情報を取捨選択し、得られた情報から課題をもつこと		■解決課題の自覚
		『いわ100』の推薦図書の「文学」への偏りが見られ、これまでの自分たちの読書傾向とあまり変わらないこと		
展開	2. 課題解決のための方法を確認する。	○推薦理由を分析するための情報	5分	■課題の解決法の理解
		<b>【分析のための情報】</b> ①題名 ②著者 ③目次 ④挿絵・写真 ⑤裏表紙内容紹介 ⑥奥付 ⑦数ページの飛ばし読み ⑧ポップ		
	3. 「いわ100」10冊から、分析する図書を選択し、グループで分析を行う。	○分析すべき図書の基準	20分	■分析図書を選択する中で、自分の普段の読書生活を再認識する。
		<b>【普段の読書生活で選択しない図書】</b> ・【文学】テーマが難解そうに思えるような普段の読書で学習者が選択しない図書 ・社会的あるいは理科学的テーマが含まれる図書 ・人としての「生き方」を考えさせる図書		
		○必要な情報を取捨選択しながら資料を読むこと		
		主題・題材(テーマ)		

展 開	4. 小グループでの分析の結果を全体に報告する。	○「いわ100」の選書基準	10分	■相互評価 他者の意見をよく聞いて、自分自身の見方や考え方を広げる。
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【主題・題材（テーマ）】</p> <p>①人間関係，友情や愛について考える</p> <p>②社会について考える</p> <p>③主人公から生き方を学ぶ</p> <p>④理科的な知識を獲得する</p> <p>⑤歴史の知識を獲得する</p> <p>⑥日本の伝統・文化について考える</p> <p>⑦岩手県の魅力について考える</p> </div>		
終 結	5. 振り返りとして、「いわ100」の選書傾向と自分の読書傾向とを比較して、気づいたこと・考えたことをまとめる。	○読書生活の方向性 (1) 娯楽読書 (2) 情報読書 (3) 思索読書 ○自分の読書傾向との比較	5分	■自己理解 分析結果を客観的資料として、自分自身の読書生活について振り返る。
	6. 次時の学習を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>分類9「文学」が数多く選書されていることは共通しているが、娯楽のみを目的として選書しているのではなく、主人公の生き方を学んだり、現代社会に対する考え方を広げたりなど、自己の考えを豊かにすることを目的として選書されている。</p> </div>		

## 6 参考文献

- ・『中学校学習指導要領解説国語編』（平成20年9月）文部科学省
- ・『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校国語）』（平成23年7月）  
国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ・『平成25年度「岩手県子どもの読書状況調査」集計結果』岩手県教育委員会
- ・森田信義／山元隆春／山元悦子／千々岩弘一（平成25年11月15日）  
『新訂 国語科教育学の基礎』 溪水社
- ・田近洵一／井上尚美（2013年9月4日）『国語教育指導用語辞典』第四版 教育出版